



文化財防ぎょ訓練

文化財防ぎょ訓練は、寺院や神社などの貴重な文化財を火災から守り、市民の文化財保護に対する関心を高めるため、毎年1月に行われています。今年は尾道市西久保町にある常弥寺で行われました。

文化財の多くは木造建築で、火が出ると燃え広がりやすく、初期対応の遅れが大きな被害に繋がります。そのため、通報や避難誘導、初期消火、放水活動までの流れを実際の火災を想定して確認します。消防だけでなく、文化財の所有者や地域住民も参加して、連携の大切さを学ぶことで、いざという時に文化財を守る体制づくりを目的としています。



Onomichi Stride コラム

～革新の旋風を巻き起こす！？ ルーキーのつぶやき～

こんにちは！ルーキーです！

1月26日に文化財防ぎょ訓練に参加しました。初期対応の重要性を強く感じるとともに、通常の火災とは違い、多くの配慮が必要だなと感じました。文化財は木造で延焼が速いため、迅速な放水位置の選定や他の隊との連携など行動一つ一つに責任の重大さを実感しました。

尾道市の古き良き街並みや伝統を守り、引き継いでいくために、まずは火事を起こさないための日々の心がけを大切にしていきたいと思います。

以上！ルーキーでした！



2026.1.28



ルーキー memo

【<https://www.fdma.go.jp/publication/portal/post2.html>】

